

平成 29 年度 記者懇談会（第 3 回）の記録

日 時 平成 29 年 6 月 27 日（火）午後 4 時 00 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 7 人

同席者 飯川副市長、天野副市長、総務部長、経済部長

- 次 第
- 1 平成 29 年度姉妹都市交流事業の実施について
 - 2 2017 いわみざわ彩花まつりについて
 - 3 岩見沢市東京プロモーションの概要について
 - 4 その他について



1 平成 29 年度姉妹都市交流事業の実施について

説明内容

(市長)

それではお願いいたします。はじめに姉妹都市交流事業の実施でございます。

これまで、アイダホ州ポカテロ市との交流経緯につきましては、資料 1 にあるとおりでございますので、ご参照いただきたいと思います。

次に、資料 2 でございますけれども、これは今年のポカテロ市からの訪問団の受入についてでございます。期間は 7 月 2 日日曜日から 7 月 17 日月曜日、祝日までの 16 日間、訪問団の人数は、高校生 7 名と団長夫妻 2 名の合計 9 名で岩見沢にお越しになる予定でございます。現地時間の 7 月 1 日にポカテロ市を出発いたしまして、翌 2 日の午後 7 時 45 分に、これ日本時間でございますけれども、新千歳空港に到着。その日は、メープルロッジに宿泊の予定でございます。

翌 3 日から市内での交流事業が始まりまして、表敬訪問、ホストファミリーとの対面式を行いまして、18 時からホテルサンプラザにおきまして、市主催の歓迎会を行う予定となっております。7 月の 14 日には彩花まつりでの観光踊りパレードにも、例年のとおり参加をしていただく予定でございます。帰国する 17 日までの間、市内の学校訪問を中心に、市内の観光スポット巡り、あるいは国際交流団体が主催する日本文化体験などの行事に参加をしていただき、最後のお別れ会は帰国の前日であります 16 日に開催する予定となっておりますのでございます。

受入についての新たなメニューでございますが、1 点目といたしまして、北海道教育大学岩見沢校との連携により、今年度からは地域プロジェクトという授業の中で、学生自ら企画・運営する交流事業を実施していただきます。これによりまして、岩見沢校の学生たちがより姉妹都市交流事業に興味を持ち、若い世代の交流を深めるきっかけになればと期待をしているところでもございます。

次に 2 点目でございますが、日本文化の体験といたしまして、岩見沢和太鼓連絡協議会のご協力により、和太鼓の演奏を目の前で披露していただき、その後、実際に太鼓団体に所属する児童生徒たちと一緒に和太鼓を打つ練習にも参加をしていただく予定としております。

また、昨年、玉泉館跡地公園の茶室見学が大変好評であったことから、今年度は岩見沢西高の茶道部の生徒たちとともに本格的な茶道体験を行うこととしております。

続きまして、今度は岩見沢市からポカテロ市への派遣事業についてご説明をいたします。

期間は 7 月 28 日から 8 月 11 日までの 15 日間を予定しているところでございます。訪問団の構成は高校生が 8 名、中学生が 2 名、引率する女性団長を加え合計 11 名でポカテロ市を訪問いたします。団員の男女別では男性 3 名、女性 7 名というところでございます。

なお、今年の団長は企画財政部税務課の川辺美穂さんが務めることとなっております。

ポカテロ市滞在中は、現地の姉妹都市協会が用意していただきました交流行事等に参加をいたします。その後、帰路でございますが、サンフランシスコに移動し、市内見学の後、現地在住の北海道出身者やその家族の方で構成されております北カリフォルニアどさんこ会の皆さんと交流会で懇親を深め、8月11日に帰国の予定でございます。

訪問する皆さんは、これから説明会あるいは、英会話教室等の準備を経て、ポカテロ市へ出発することになります。岩見沢市またポカテロ市双方にとりまして、実りの多い交流事業となることを期待しているところでございます。

最後に、昨年、ポカテロからの訪問団の滞在期間中を「姉妹都市交流週間」というふうに位置付けたところでございますが、本年も同じく「姉妹都市交流週間」といたしまして、市役所正面玄関に横断幕を掲げ、また市のホームページや国際交流のフェイスブックなどでPRを行い、市民の皆様が訪問団員との交流を深めるきっかけにしてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

質疑応答

なし。

2 2017 いわみざわ彩花まつりについて

説明内容

(市長)

それでは説明をいたします。

岩見沢市の五大祭りの一つであります、今年のいわみざわ彩花まつりを7月10日月曜日から16日、日曜日までの1週間にわたりまして、岩見沢市観光協会が主催となり、あやめ公園、バラ園、駅東市民広場、イベントホール赤れんがなどにおいて開催をいたします。

期間中の主な内容につきまして申し上げますと、あやめ公園では、168種12,000株のあやめや花菖蒲を観賞することができる状態でございます。ただ今年は天候の関係で、あやめについてはちょっと十分な見頃ではないかなと思っておりますが、また、いわみざわ公園バラ園におきましては、630種8,800株のバラが植栽をされているところでございます。

16日、日曜日午前11時30分からバラ園におきまして、野だて、そして箏曲の演奏も予定しており、バラの鑑賞と併せて楽しんでいただきたいと思いますと思っております。

また、市内中心市街地を会場といたします「観光踊りパレード」は、7月14日、金曜日午後6時20分から開会式を予定し、その後パレードが実施されるところでございます。現在のところ26チーム1,100名の参加予定というところでございます。

また週末の土曜、日曜日のイベントといたしましては、市民の皆様による芸能発表、子ども達によるダンスの披露、また、ふれあい動物園などを開催し、子どもたちにも楽しんでいただけるものとなっております。

また期間中ではございませんけれども、23日、日曜日午後8時から、北海道グリーンランド遊園地を会場に約3,000発の「花火大会」を予定しております。当日は、北海道グリーンランド遊園地のご協力により、岩見沢市民は入園料が無料、午後4時から市外の方も入園無料となっております、多くの方に花火なども楽しんでいただきたいと願っているところでございます。

昨年は、彩花まつりは天候に恵まれなかったところでございますが、約10万3,900人の方々にご来場をいただいたところでございます。今年はなんとか天候に恵まれ、より多くの方々にお越しいただきたいと期待をしているところでもございます。

さらに、彩花まつりに先立ちます花のイベントと致しまして、今年もいわみざわ公園バラ園におきまして、「いわみざわローズフェスタ2017」が6月24日から開催をしているところでございます。この後も、7月9日、日曜日まで開催の予定でございす。

イベントの主役は、もちろんバラでございすが、そのバラを日頃育てているバラ園のスタッフが、直接園内を案内しながら、このバラ園にしかない希少な品種、さらにはバラの名前に込められた思いやエピソードなども紹介をしながらガイドする「ローズツアー」のほか、来園された皆さんの投票で一番人気を決めたり、さらにはウォークラリーやスタンプラリーを行ったり、ガーデニング用品の販売なども行う予定でございす。また、今年新たに、一番香りが良く、輝いている朝のバラをご案内する「朝のローズツアー」も開催をいたしますので、一番花が咲き揃い、バラ園が一番輝くこの時期こそ、多くの方に「北国のバラ園」いわみざわ公園バラ園にお越しただいただければと期待をしております。

以上でございす。

質疑応答

なし。

3 岩見沢市東京プロモーションの概要について

説明内容

(市長)

3番目、岩見沢市東京プロモーションの概要についてご説明させていただきます。

昨年度は、観光振興戦略に基づきまして、様々な媒体を通じて、まず岩見沢市を知っていただくために、例えば11月には、観光協会の会長と一緒に、台湾で観光プロモーションなども行ったところでございす。

そこで今年度でございすが、観光振興戦略の最終年にも当たります。「実際に観光客の増加を実感できる1年」にしたいということで、着地型旅行商品として可能性

の高いアグリツーリズムを主として、国内首都圏の旅行業者やご来場者の方々に PR 及び販売するものでございまして、7月20日木曜日、会場は東京丸の内東京シティアイを予定しておりますが、11時から19時まで開催をすることとなっています。

具体的なイベント内容でございますが、都内の旅行関係企業に対しまして、ダイレクトメールでご案内して、来場いただいた企業に対しまして、商談会の開催を実施し、具体的な誘客ツアー、メディア等による PR 等について、商談を行う予定でございます。

さらに会場にありますステージの上では、岩見沢市の観光を PR するとともに、農業者によるトークショー、さらには岩見沢クイズなども開催し、来場者に岩見沢を印象付けてもらうようなアプローチも考えているところでございます。

また、岩見沢産の原料を使用しましたパン、さらには加工品、そして新鮮なサクランボやトウキビも販売をさせていただき、岩見沢市の味も PR していきたいと考えているところでございます。

旅行商品につきましては、昨年度 JTB 北海道と、観光協会が具体的に作り上げてまいりました、アグリツーリズムの商品を、会場内にあるツアーカウンターで、販売、申し込みを受けるブースを設けているところでございます。

さらに、岩見沢市の景色、バラ、ワイナリー、遊園地などをバーチャルで体験できるバーチャルリアリティ、VR コーナーも設けて、岩見沢を実際に体験していただくような仕掛けも実施をすることとしております。

会場は丸の内ど真ん中でございまして、サラリーマンの方、あるいは観光客も多く往来する位置に面しております、1日3,000人以上の方の来場者を期待しているところでございます。会場内では、岩見沢の観光に関するアンケートも同時に実施することで、都心部から岩見沢に人を呼び込むための情報も収集したいと考えているところでございます。

以上でございます。

質疑応答

(北海道新聞)

これは基本的に初めての試みですか。

(市長)

初めてです。

(北海道新聞)

来場者は旅行関係業者だけではなくて、一般の方も呼ぶということですか。

(市長)

一般の方も訪れることができますので。

(北海道新聞)

このイベントの告知に向けて何か首都圏で PR というのは。

(市長)

ダイレクトメールで関係者等々についてはご案内等々をしておりますし、非常にロケーションも良く人通りも多いところでございますので、そこにいる方にも訪れてい

ただきたいと。また、東京岩見沢会をはじめ岩見沢ゆかりの方にも PR しているところ
でございます。

(北海道新聞)

商業施設になるのですか。

(市長)

私も実際行ったことがないのでわかりませんが。

(経済部長)

空間展示 PR 施設というようなことですね。いろんなイベントに貸出をしているところ
でございます。広さはおよそ 200 m²の場所です。

(北海道新聞)

これは観光戦略事業の目玉事業と言っていいですか。

(経済部長)

その一つですね。

(北海道新聞)

今年は、国外での PR というのは。

(市長)

現在 11 月にシンガポールと台湾に、前は岩見沢の PR ということだったんですけ
れども、開発した観光商品の提供というようなことで、行く予定というふうに今検討
されているところです。

(北海道新聞)

市長も。

(市長)

できたら一緒にと言われています。

(読売新聞)

今市長の説明のあった、バーチャルリアリティコーナーなんですけれども、具体的
にどういったことをやろうとなさっているんですか。

(市長)

岩見沢市の風景、景色、先ほど申し上げた岩見沢のバラ園ですとか、岩見沢にある
ワイナリーですとか、そういったものをバーチャルで岩見沢に来たかのように体験し
ていただくというブースということでございます。

(読売新聞)

それは先方の装置を使うのかそれともこちらから何かを用意するのですか。

(市長)

こちらから用意していくんですよ。

(経済部長)

はい、ソフトとかの撮影も今全部終わって準備しているところなんですけれども、
ゴーグルなんかを付けて居ながらにして岩見沢の風景を見ることができるとい
うことです。

(読売新聞)

3D 的なイメージなんですか。

(市長)

今流行りのバーチャルリアリティですから、そのような感じになろうと想像はしていますけれども。まだ私自身も実際に体験していません。

(読売新聞)

時間というか、ほぼどのくらい。

(経済部長)

画像の長さについてはちょっとまだ把握していません。

4 その他について（記者からの質問）

質疑応答

(HBC)

先日のパラリンピックの合宿の視察にカナダの視察団がお見えになりました。我々動向させてもらったんですが、結構質問だとか要望だとかあったみたいですが、その後、視察団からそういった問合せとかあったでしょうか。

(市長)

現地で色々ご指摘いただいた事項などは、整理して既にカナダの協会の方に送って検討の材料にさせていただいています。色々要望があった訳ですけれども、だいたいその要望に沿った形で整える内容になっているかと思えますけれども。当初3か月くらいかけて検討するという話がありましたけれども、直近の情報ではもっと早くカナダとしては結論を出したいんだということもおっしゃっていたようでございます。

(HBC)

体育館の通路の幅とかトイレが足りないとか物理的な要求もあったと思うんですが、その辺は市としては。

(市長)

アリーナで言われたのは、例えば更衣室が狭いとか、そこは教育大学と調整した上で、パーテーションで仕切って、臨時の更衣室を設けるとか、それから室温の管理というご指摘をいただいていますけれども、実際に夏の気温変化が室内でどういう状況で推移するのか、それにスポットクーラー等の必要性が有るのか無いのか、ご指摘いただいたことが結構いくつかある訳ですけれども、そういったことについてお答えをして今検討していただいているところではございます。

(HBC)

市側として手ごたえとかは。

(市長)

現段階で私どもができるご提案等々はさせていただきましたが、いずれにいたしましても強敵が控えておりますので、何とも言えません。

(北海道新聞)

10月の日本代表の合宿に関しては何か前進があるのでしたっけ。

(市長)

それは、実施する旨で協議は進んでいるはずです。

(HBC)

6月15日に市の職員が逮捕されたという事案がありました。その後、市の方で調査をしてというお話がありましたが、その辺の進捗状況とかがいかがでしょうか。

(市長)

まず本人とはまだ、事情聴取ができていないという状況でございますので、近々担当の弁護士さんと協議をして本人から直接色々事情を聴くということを予定したいというふうに思っています。

(HBC)

事実経過、経緯も含めてまだ。

(市長)

まだまだ、捜査中ですから、捜査の状況を見ながらということになるかと思いません。

(HBC)

起訴はされて。

(市長)

起訴はまだされていません。そこらあたりもどうなるのか、全然さっぱりわかりません。

(HBC)

警察側からも特に情報提供というのは。

(市長)

捜査情報というのは教えてはくれません。

(北海道新聞)

先日議会の答弁でもありましたけれども、内部統制に関する庁内検討委員会。これはどういう組織でどんな内容を協議して、どういうスケジュールで進めていくのかがわからないもので、ご説明いただけますか。

(市長)

議会でもお話したとおり、内部統制は今、地方自治法が変わりまして、市町村の場合は努力義務だったわけ。そうですね、それを岩見沢市は制度化をするということで、リスク管理を、リスクをまず洗い出す作業を徹底的にしていくと。職務上いろんなリスクがある訳ですけども、まずどういったリスクがあるのか、またリスクを減らす、無くすためにどういった事務の手順があるのか等々のところから作業を進めているということでございます。まとめれば、そういった体制を全庁で共通認識をして取り組んでいきたいと思っているところでございます。

(北海道新聞)

組織としては、職員課長が委員長という形よろしいのでしょうか。

(市長)

検討組織でしょ。検討チームですね。

（北海道新聞）

検討委員会としての会合というのはもう開かれたのですか。

（総務部長）

立ち上げしかしていませんので、それをどういうふうに色々詰めていくかという形になるかと思いますが、今は実務部隊としての会議を一度やって近々二度目をやるよというような状況です。

（北海道新聞）

検討チームが職員課長と主幹と係長クラスということなんですね。

（総務部長）

はい。

（北海道新聞）

目途としては、いつくらいに内容を固めたいというふうに思われているのでしょうか。

（市長）

今、都道府県の策定義務はいつまでだったっけ。2年後だよな。

（北海道新聞）

合わせる形で考えていらっしゃる。

（市長）

合わせるとか合わせないとかじゃなくて、岩見沢市のリスクを一回、今一度こう見直すというんですかね、洗い出すというんですかね、そういったことをまずしっかりやっていきながらということになろうかと思います。

（北海道新聞）

いつまでというのはまだ明言はできないということですね。わかりました。

（注）記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：岩見沢市秘書課広報係）